

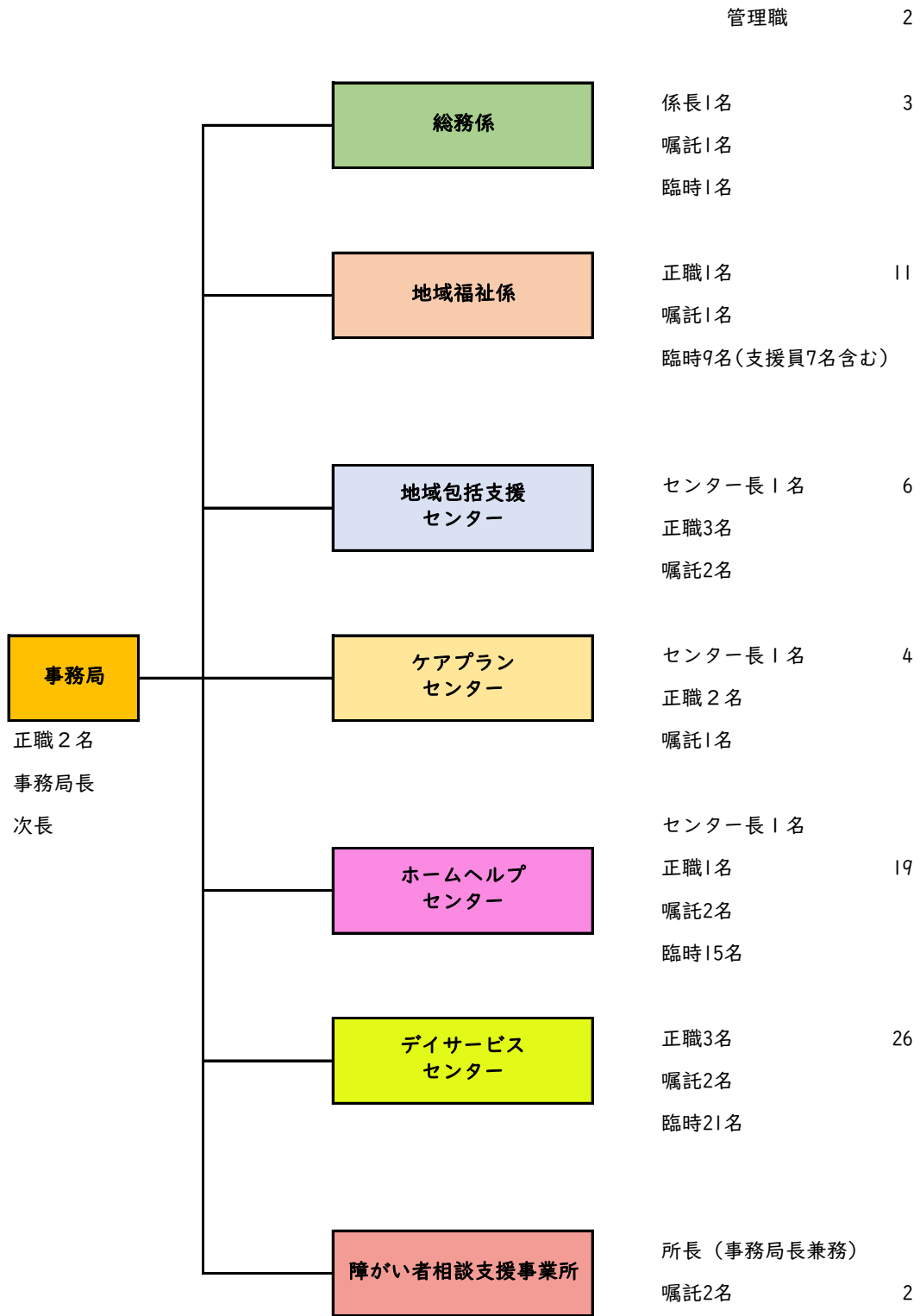
令和7年度

事業報告書

社会福祉法人 大山崎町社会福祉協議会

職員体制

(令和8年3月31日現在)



73

第1四半期職員数

正職員	16
嘱託職員	13
臨時職員	41
合計	70

第2四半期職員数

正職員	16
嘱託職員	12
臨時職員	43
合計	71

第3四半期職員数

正職員	16
嘱託職員	12
臨時職員	44
合計	72

第4四半期職員数

正職員	16
嘱託職員	11
臨時職員	46
合計	73

令和7年度事業計画報告

令和7～9年度 3か年 第二期中期計画基本理念 「一人ひとりが尊厳と幸せを感じるおおよまざきをつくる」



令和7年度 事業計画重点目標

- ①第二期中期計画について、職員全員が主体的かつ自律的な参加および支援を行う。
- ②社協は地域福祉に貢献しなければならない。地域福祉への貢献総量である社協サービス利用量の成長を通じて、より多くの地域貢献につなげる。
- ③社協は地域福祉に貢献しなければならない。そのためには地域に満足していただかなければならない。地域の満足を得るためには、職員が持てる力を十分に発揮し職員の満足度を高めなければならない。このような循環を構築するために、職員の心理的安全性を確保できる組織風土をつくる。

目標①に対する取り組み状況

職員の主体的なキャリア形成を支援するため、キャリアパスに焦点を当てた動画配信や外部研修受講を実施し、自律的な学習環境の整備を進めました。
業務遂行の主体性向上のため、センター長と所属職員の定期面談に目標シートを活用し、半期ごとの振り返りと次年度目標設定を連動させ、自律的な業務遂行を行う仕組みづくりを行いました。
次世代のリーダー層育成に向けた研修計画の検討を開始し、他部署への研修プログラムを実施することで、職員が組織全体を理解し、多角的な視点を持つ機会もつくりました。
これらの取り組みを通じて、職員の主体的かつ自律的な組織運営への参画意識の向上を図りました。

目標②に対する取り組み状況

サービス提供体制の効率化と支援総量の拡大を目指し、介護保険事業におけるICT化を進めました。
デイサービスにおいて情報共有ツールとしてLINEWORKSラジャーを導入し、スマートフォンによるインカム機能、会話の記録化、情報共有ができるようになりました。
また、業務効率改善会議によるマニュアル作成の提案を通じて、業務の標準化を進めました。
広報活動においては、広報委員会によるInstagramを活用した情報発信を強化し、特に若年層を含む潜在的な利用者や協力者に向けたアプローチ力を高めることに取り組みました。介護保険サービスにおいては対象が高齢者であることから従来の紙媒体での広報を行い、社協だよりの企画変更も行いました。
他社協の状況聴取を実施し、相互の事例や知見を取り入れ、次年度の地域貢献戦略の作成を進め、事業計画に反映することができました。

目標③に対する取り組み状況

職員の満足度向上と地域貢献の好循環を構築するため、心理的安全性の基盤づくりに注力しました。
管理職とセンター長の定期面談、センター長会議の強化、会長の各部署会議に参加等、職員と経営層の対話の機会をつくることを始め、意思疎通を強化し、経営戦略への理解と参画意識を高めることを進めました。
また、業務ストレス軽減として、会議前の事前打ち合わせ強化と会議時間の短縮を総務係やプロジェクトチームで試験的に実施検証し、業務の効率化と負担軽減を図り、職員満足度向上を図りました。
産業医と衛生委員が連携し、ストレスチェックの仕組みづくり及び実施を行い、職員の心身の安定を組織的に支援する体制づくりを行いました。

業務改善計画進捗報告

提言カテゴリー	提言内容	内容からの改善項目	具体的改善策	進捗状況	
提言①	勤怠管理の徹底と行動の可視化	出勤簿管理	勤怠アプリの導入検討	本会の管理に適したアプリを再考することとなり、最終決定は次年度に持ち越しになる。有料初期設定のサポートを活用することも検討（補助金等を活用の視野に）	
		業務日報の作成検討	既存アプリの活用 新書式作成	部署によるがLINEWORKSで業務日誌が定着しつつある	
		外出時の行動記録化	既存アプリの活用 新書式作成	LINEWORKSに職員個々にスケジュール作成、行動の可視化を進めた。全部署が行動記録の可視化の意識付けが課題	
		行動の可視化	公用車の管理 鍵の管理	誰もが見える場所に鍵を設置。今後は管理体制の構築が課題	
		研修プロジェクトによる意識共有	職務規律・業務管理意識研修	倫理について動画研修履修。研修等での求める職員像の言語化	
提言②	利用者や家族が苦情・要望を言いやすい関係の構築	ヒヤリハット体制の整備	各部署での実施 新書式作成	介護保険ソフトシステムを活かした仕組み、フォーマットを検討中	
		研修プロジェクトによる意識共有	人権・サービス提供倫理研修	法人全体研修で専門職倫理を実施。動画研修でマナー等も実施	
		苦情受付体制の整備	苦情受付事業・顧問弁護士の活用	顧問弁護士の定期訪問開始。定例での苦情解決委員会の開催	
		研修プロジェクトによる意識共有	苦情からの業務改善意識研修	現段階ではヒヤリハットの一部、事故報告、苦情の情報共有のみ。今後は意識改善研修の実施が課題	
		電子メール等による当事者や家族、住民からの声を確実にキャッチし、即応できる受付体制を直ちに構築すること	連絡受付体制の整備	各部署でのSNS受付体制検討	関係機関、利用者家族とのLINEWORKS対応を開始。訪問介護ではケアパレットによる対応を実施
提言③	組織づくり	業務改善計画プロジェクトチーム立ち上げ	計画作成およびモニタリング	プロジェクトチームの定期的開催、進捗状況・課題の共有、課題解決仕組みづくりの検討、定期的な評価を実施。	
		仕事のマニュアル化を行い、業務内容および各役職の役割について明確化すること	業務マニュアルの作成(見直し)・周知・活用	各部署での作成検討	処務規程改定によるセンター長役割強化の検討。各部署各事業の業務遂行作成。多様な業務のため統一書式の課題は残る。
		メンタルヘルス不調等の一次予防に関して、産業医の配置など外部の専門家の意見を定期的に取り入れ、支援体制の見直しを図ること	衛生委員会での産業医配置 月に1度の顧問社労士との定例会	産業医によるメンタルサポート体制の構築・顧問社労士との連携	毎月の産業医出席の衛生委員会の開催。法人のメンタルサポート環境改善。今後はサポートフローチャート等の作成が課題
			早期発見予防体制の検討	ストレスチェック等の早期発見体制の構築	法人で厚労省ストレスチェックプログラムにて実施。高ストレス者には産業医面談を勧奨。受診率の向上が課題
提言④	反復した研修の実施	研修プロジェクトチームの立ち上げ	研修チームによる 新研修体制の検討	研修プロジェクトからの研修動画の案内 各部署で年間動画研修の実施。今後はキャリアパス等の研修実施が課題	
		法人内職員研修の見直し	新規研修の創設と 既存研修内容の見直し	令和7年度法人全体会議を実施、第二期中期計画の理念や福祉従事者としての心構えを管理職より講義。今後も継続	

総務係

1. 事業内容

労務管理、人事管理、経営管理及び法人の意思決定にかかる部分と建物の指定管理を担っております。

2. 職員体制

係長、嘱託職員1名、臨時2名

3. 令和7年度目標

- 職員同士の連携・協働により個性や専門性を発揮し、共に達成感を感じることができる職場環境づくり（各部署目標達成へのサポート・モチベーションアップのための仕組みづくり・研修プロジェクトチーム 起ち上げ・人材確保）
- 人・地域とのつながりを大切にできる開かれた組織づくり（広報戦略プロジェクトの計画的実施・社協会員の拡大および会費の活用・組織内リーダーシップ醸成支援）
（各部署目標達成へのサポート・モチベーションアップの為の仕組みづくり・人材確保）
- 理事会・評議員会・センター長会議などの適正運営による法人の意思決定手続きの強化と法令順守のための指針等の整備（ガバナンスとコンプライアンスの強化）
- 法人全体のICTの推進（情報共有と業務遂行の平準化と加速による生産性向上とガバナンスの浸透）

4. 年間報告

◆人材確保と労務・財務管理

スポットワーカーをはじめとする多様な媒体の活用や紹介センターへの依頼など、採用活動を多角化させました。施設見学者の獲得には至ったものの、最終的なエントリーへの結びつきには課題を残しました。また、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを法人内で実施し、職員の健康管理に努めました。年度末に向けては、外部委託契約の更新、有給休暇付与の算出、雇用契約の更新、および会計処理を計画的に進めました。

◆ICT推進と広報活動

業務の効率化と情報共有の迅速化を目指し、ケアプランデータ連携システムや「LINE WORKSラジャー」を導入しました。既存のLINE WORKSの活用度もさらに高め、ICT化を大きく推進しています。広報プロジェクトでは新たにInstagramを開設し、フォロワー数を着実に伸ばすなど、外部への情報発信力を強化いたしました。

◆組織内連携の強化

各委員会やプロジェクトチームでの決定事項をセンター長会議で共有する仕組みを構築しました。これにより、各活動の「見える化」が進み、決定事項に対して法人全体で一体となって取り組む意識を醸成することができました。

5. 次年度の課題

スカウト型求人、スポットワーカー、人材紹介など様々な方法の情報収集を行い、人材確保を試みましたが、資格によっては人材確保が難しくなっています。処遇改善加算、ICT加算、BCP義務化、ハラスメント対策、育児・介護休業法改正、安全衛生管理、各委員会やプロジェクトチームの事務局など、年々総務の仕事が増加しています。限られた職員数で業務を行えるように、役割分担と部署内での情報共有、業務の効率化などが課題となっています。勤怠アプリの導入が費用や初期設定事務作業の課題があり7年度中に導入ができなかった為、8年度中には導入を行っていくことが課題です。

■法人運営事業

◆三役会

(正副会長及び事務局長との定例会議・毎月実施)

4/28 5/21 7/23 8/26 9/24 10/23 12/3 1/21 2/24 3/25

◆定例監査

(予算の執行・収支・財産管理の業務や事業が適正に行われているかを四半期ごとに監査する)

5/28 9/10 12/2 2/18

◆理事会

(事務局から事業の報告を行い、運営方針や予算などの意思決定を行う)

6月6日	第1号議案	令和6年度 事業報告及び決算に関する件
	第2号議案	理事・監事及び評議員選任解任規程の一部改正に関する件
	第3号議案	役員等報酬費用弁償に関する規程の一部改正に関する件
	第4号議案	次期役員(理事・監事)選任候補者の推薦に関する件
	第5号議案	評議員選任解任委員選任に関する件
	第6号議案	評議員候補者の推薦に関する件
	第7号議案	評議員選任解任委員会の招集に関する件
	第8号議案	定時評議員会の招集に関する件
6月27日	第9号議案	会長及び副会長の選任に関する件
9月24日	第10号議案	育児・介護休業等に関する規則の一部改正に関する件
	第11号議案	就業規則の一部改正に関する件
	第12号議案	嘱託職員就業規則の一部改正に関する件
	第13号議案	臨時職員就業規則の一部改正に関する件
	第14号議案	給与規程の一部改正に関する件
12月8日	第15号議案	補正予算に関する件
	第16号議案	令和7年度第2回評議員会の招集に関する件
3月3日	第17号議案	給与規程の一部改定に関する件
	第18号議案	嘱託職員就業規則の一部改定に関する件
	第19号議案	臨時職員就業規則の一部改定に関する件
	第20号議案	令和7年度事業計画(案)に関する件
	第21号議案	令和8年度予算(案)に関する件
	第22号議案	令和7年度第3回評議員会の招集に関する件

◆評議委員会

(事務局から事業の報告を行い、予算・決算の承認、役員等の選任、解任、役員報酬の決定、定款の変更といった重要な事項について審議及び決議する)

6月27日	第1号議案	令和6年度事業報告及び決算の承認に関する件
	第2号議案	役員等報酬費用弁償に関する件
	第3号議案	理事の選任に関する件
	第4号議案	監事の選任に関する件
12月24日	第5号議案	補正予算に関する件
3月24日	第6号議案	令和8年度事業計画(案)に関する件
	第7号議案	令和8年度予算(案)に関する件

◆評議員選任解任委員会

(評議員の選任や解任を厳正かつ中立に決める、法人から独立した委員会です。)

2025/6/27開催

■ 寄付・会費活動

(個人や団体からの金銭や物品等の寄付を地域福祉活動に活かす事業)

◆ 寄付金

月日	寄付申出人	金額
4月8日	昔懐かしい歌を楽しむ会	¥10,000
4月9日	乙訓明るい社会づくり運動の会	¥10,000
5月22日	神谷 洋一郎	¥5,000
6月17日	真船 文彦	¥7,500
6月19日	的場 真知子	¥3,000
6月27日	匿名	¥2,000
6月27日	匿名	¥2,000
7月2日	楡 勝輔	¥10,000
9月30日	大北 良則	¥3,000
12月1日	匿名	¥11,135
12月4日	天野 賢市	¥10,000
12月7日	竹林ボランティア 江下伝明	¥4,050
12月2日	大山崎町チャリティゴルフ実行委員会	¥30,000
1月15日	大山崎町文化協会 田中 俊裕	¥5,804
1月16日	匿名	¥5,000
1月20日	垣内 喜久子	¥3,000
2月20日	グランドゴルフ協会	¥4,600
3月8日	匿名	¥2,000

¥128,089

◆ 寄付物品

月日	寄付申出人(敬称略)	物品名
5月30日	有田 光雄	白粥 108袋
6月12日	大山崎中学校PTA連絡協議会	パックご飯・レトルト食品等
7月16日	貞野 久史	歩行器
7月25日	匿名	介助式歩行器
1月23日	匿名	介護用品
3月17日	坂口 敏子	肌着

◆ 社協会費

(社協の活動に賛同いただき、会費納入することにより地域福祉に参加していただく活動)

区分	内容	令和7年度実績	令和6年度実績
一般	1,000円以上/一口	¥987,833	¥678,500
賛助	3,000円以上/一口	¥145,000	¥296,000
特別	10,000円以上/一口	¥360,000	¥380,000
合計		¥1,492,833	¥1,354,500

◆ 募金百貨店プロジェクト

(店舗≪企業≫と協力し寄附付き商品の企画・運営)

月日	企業名	募金額
4月1日	バロンバロン	¥10,096
6月23日	バロンバロン	¥8,772
9月29日	バロンバロン	¥14,700
12月8日	OKK・MUSIC	¥10,000
12月20日	バロンバロン	¥11,718
3月5日	バロンバロン	¥10,005
3月30日	Adeli cafe	¥2,900
合計		¥68,191

■各種委員会

(介護保険・障害福祉サービスの運営規程等で定められている委員会を設置し、コンプライアンスを順守する)

◆衛生委員会（月1回開催）

(職員の健康障害防止及び事務所の衛生管理について協議し、対策を行う。)

5/16 6/16 7/18 8/15 9/19 10/31 11/21 12/19 1/16 2/20 3/23

ストレスチェック実施・その他職員の安全衛生にかかる事柄

◆虐待防止委員会（年1回以上開催）

(虐待防止のための計画づくり、虐待防止のチェックとモニタリング、虐待（不適切な対応事例）発生後の検証と再発防止策の検討する)

今年度は動画配信サービスを利用した研修実施 委員会は12/24 3/17

◆苦情解決委員会（年1回以上開催）

(事務局長を苦情解決責任者とし、苦情を密室化せず、社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることなどにより、円滑・円満な解決の促進や事業者の信頼や適正性の確保を図る)

3/22 各部署へ寄せられた苦情等について委員会で適切な対応について話し合った

■各種プロジェクトチーム

◆広報戦略プロジェクト（年4回開催）

(社協だよりの記事掲載情報の取りまとめ・各号の基本コンセプトの決定HPとの棲み分け他)

社協だより 4月(127号) 7月(128号) 10月(129号) 1月号(130号)

各7500部配布(全戸・賛助・特別会員へ配布)

LINE登録 359人 (令和6年度305名) *友達数、ブロック数の増。

インスタフォロワー 91人 (3月31日現在)

次年度社協だよりリニューアルについて検討

◆第二期中期計画プロジェクト（年4回開催）

(令和7年度～令和9年度の第二期中期計画の進捗管理)

5/21 8/20 11/19 2/4進捗確認

◆業務改善計画プロジェクト（年4回開催）

(本会不祥事案の第三者委員会の提言に沿って業務を改善していく)

4/28 7/2 10/2 12/23進捗確認

◆研修プロジェクト（月1回開催）

(各プロジェクトや委員会などと連携を図り、必要な研修を企画していく)

4/9 5/7 6/11 8/6 9/3 10/1 11/5 12/3 1/7 2/16

地域福祉係

1. 事業内容

ボランティアに関わること、福祉教育に関わること、生活困窮に関わること、福祉サービスの利用援助に関わること等、様々な地域ニーズに応じて対応制度を設計し事業化していく部門です。

2. 職員体制

正職1名、嘱託1名、臨時9名

3. 令和7年度目標

- 「楽しそう」が伝わる仕掛けづくりとこれまで社協活動と関りが薄かった世代への働きかけ
- 多世代が主体的に参加したいと思い、多様な価値観が尊重される活動と居場所づくり
- 法人内で連携した戦略的な広報活動の実施

4. 年間報告

◆既存事業の見直しと地域コミュニティ・居場所づくり

「なごみきっちん」や「ことぶき会」などの既存事業について、「楽しそう」という視点から内容の見直しや目標の再確認を行い、改善を進めました。また、地域の催しへの出店、町総合防災訓練でのワークショップ開催、ボランティアの皆様とのフードパントリー共催などを通じ、多世代が多様な価値観のもとで集える活動や居場所づくりを実践いたしました。さらに、権利擁護業務や特例貸付業務では、利用者の増加やイベント開催回数の拡充において着実な成果を上げています。

◆広報プロジェクトとの連携強化

新年度に向け、法人内の広報プロジェクトと緊密に連携いたしました。新しい「社協だより」の検討、社協ロゴの作成、Instagramを活用した迅速な情報発信など、多様な媒体を用いた広報活動に注力いたしました。

◆人員体制の課題と今後の展望

7月に嘱託職員1名が退職し、12月まで部署内に正職員を配置できない期間が生じました。地域福祉を担う中核部署の体制が一時的に脆弱化したことで、事業改善の試みは進めたものの、当初の計画通りに達しなかった面がありました。

5. 次年度の課題

■まずは職員体制を整えることが喫緊の課題となっている。法人運営部署と協議しながら職員の補充に努めていきたい。

■権利擁護利用者の増加、新日常生活自立支援事業の対応等、地域福祉においても専門性の高い対人援助が求められている。複雑高度なニーズに対応できる職員の育成が課題となります。

■地域福祉事業

(属性を問わず多世代が交流できる住民主体の地域福祉活動を展開する)

◆なごみきっちん

(子どもを真ん中に多世代交流できる居場所づくり)

日程	活動内容	参加人数	支援者数
5月17日	子ども中心とした居場所づくり【ボランティアと調理】	27	10
6月21日	子ども中心とした居場所づくり【ボランティアと調理】	24	10
9月23日	子ども中心とした居場所づくり【防災体験と防災食】	16	8
12月13日	子どもたち自身で簡単調理を身につける居場所づくり	12	8
2月28日	子どもたち自身で簡単調理を身につける居場所づくり	16	9

◆なごみファーム

(農業を通した多世代交流できる居場所づくり)

週1回農業活動、メンバーによる月1回の定例会で運営
社協事業(なごみきっちん・フードパントリー等)への食材提供
収穫した野菜やボランティアさん提供野菜販売による募金の獲得

◆ひとり暮らし高齢者の会(ことぶき会)への支援

(ひとり暮らし高齢者に対する地域の見守り及び生きがいつくり支援)

日程	事業内容	参加者数
5月26日	第1回世話役会	3
7月14日	第2回世話役会	4
9月26日	民生児童委員友愛訪問支援	全会員152名
10月27日	第3回世話人会	3
11月10日	ことぶ喫茶(酒井司法書士)	24
3月4日	民生児童委員さんとことぶき会員の交流会	14
3月11日	民生児童委員さんとことぶき会員の交流会	27

◆社会福祉援助技術現場実習受け入れ

(大山崎町の地域福祉活動を学ぶ社会福祉士実習生の受け入れ)

8/4~9/12 佛教大学社会福祉学部・社会福祉学科 3回生1名受け入れ
町内社会福祉施設や地域活動団体の協力得て実習プログラム作成

◆大阪人間科学大学との協力

(大山崎町と連携協定を結んでいる大学に協力して協働の授業を担当)

社会と共生Ⅱ 8/25 9/1
人間関係論 10/26

◆くらし助け愛サポーター事業

(共助を目的としたくらし助け合い隊サポーターによる生活支援)

サポーター21名登録、利用者 2名
令和7年度実績(延べ回数): ごみ出し70件、水やり2件

◆地域まつり協力事業

(地域のまつりに出店協力。地域住民とのつながりづくりや共同募金の啓発を目的とする)

月日	名称	出店内容
4月5日	さくらのつどい	綿菓子販売 (赤い羽根共同募金へ)
6月15日	公サ連祭	綿菓子販売 (赤い羽根共同募金へ)
8月24日	円団夏祭り	綿菓子販売 (赤い羽根共同募金へ)
10月5日	名月のつどい	綿菓子販売 (赤い羽根共同募金へ)
12月7日	つくどんフェスタ	綿菓子販売 (赤い羽根共同募金へ)

◆あかりちゃん祭

(大山崎町社協主催の祭。多世代交流や社協やボランティア活動の周知を目的とする)

10/26 (日) 地域福祉関係35団体出展・25,818円を赤い羽根共同募金へ寄付

◆きょうと地域福祉活動実践交流会

(京都府内で地域を支える活動をされている団体、活動者の交流・活動発表の場)

11/29 (土) 防災をテーマに向日市で開催

■ボランティアセンター事業

(ボランティアの紹介やコーディネート・ボランティア保険の受付・ボランティア養成講座の開催)

◆ボランティアセンターの登録状況

種別	女性	男性	計	6年度
個人	20	15	35	36
グループ	237	167	404	444

・ボランティア連絡協議会加入グループ → 13 439

(さくら、ぴんぽ〜ん、ポコの会、作業、陽だまり、おもちゃ病院、輝きクラブ、お箏伝承の会、あゆむ会、朗読、大正琴、テーブル茶道、すみれ)

・その他連携ボランティアグループ → 11

◆ボランティア保険 → 加入者 297名 昨年度354名

◆ボランティア連絡協議会

(ボランティアセンターに登録をした団体からなり、定例会を開催し情報交換を行う)

月日	内容	参加人数
4月3日	各ボランティア団体の前年度活動報告と今年度計画の共有 大山崎町ボランティアバンク・府社協助成金について 町社協との協働プログラムの調整・V0学習会について	9人
5月21日	【V0学習会】「学校にいけなくなった子どもたちの回復過程について」 講師：yabukogi 谷平 亘氏 町社協との協働プログラムの調整について	21人
6月25日	活動冊子ボランティアハンドブックについて 大山崎町ボランティアバンクについて あかりちゃん祭への協力調整について	10人
9月3日	令和7年度ボランティアハンドブック情報更新 町総合防災訓練ボランティアについて あかりちゃん祭出展について	10人
10月26日	あかりちゃん祭ボランティア 体験・ステージ発表 情報交換・交流	17人
1月21日	あかりちゃん祭実施報告 ボランティア学習会のテーマ検討 次年度会長・副会長・会則の変更について	11人

◆夏休み小中学生ボランティア等体験教室

(社協職員と地域の活動者が協働して地域特性を生かしたプログラム実施)

月日	活動内容	団体	参加人数
7月23日	トーンチャイムとベル体験・デイでの演奏披露	ポコの会	25人
7月29日	茶道体験・デイ利用者へのおもてなし	テーブル茶道	10人
8月1日	お箏オカリナ体験・デイでの演奏披露	すみれ・伝承の会	5人
8月6日	障がいのある人と共にクッキーづくり体験	やまびこ	6人

◆福祉教育

(町内小学校と協力し、福祉体験授業を実施)

月日	活動内容	対象
6月24日	障がいのある人の体験談から学ぶ(視覚障害)	第二大山崎小
7月10日	車いす体験	第二大山崎小
10月7日	車いす体験	大山崎小
10月15日	障がいのある人の体験談から学ぶ(視覚障害)	大山崎小
2月3日	児童向け認知症サポーター養成講座	第二大山崎小

■災害ボランティアセンター

(災害発生時、災害ボランティアセンターを開設し支援ニーズの把握・整理を行うとともに、支援活動を希望する個人や団体の受け入れ調整やマッチング活動を行う。また平常時には災害に関する啓発及び訓練活動を実施する。)

◆平常時災害啓発事業

月日	活動内容	団体	参加
5月14日	第4町内会防災研修	第4町内会	20人
6月26日	町災害ボラ運営協議会	運営委員	5人
7月1日	防災マップ配布	町内全戸	約7000世帯
10月26日	あかりちゃん祭での啓発	防災士会等	約500名
11月16日	町総合防災訓練・避難所運営・出展	登録ボランティア	主に円団地域

■生活困窮者支援及び権利擁護事業

◆生活福祉資金(京都府社協受託事業)

(高齢者・障がい者・低所得者を対象に相談と緊急小口・福祉資金・教育支援資金等の貸付)

申込件数。()内は相談件数

令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急小口	(2)	(3)	2(2)	2(1)	(2)					1		(3)	5(13)
福祉資金	(1)	1				1	(1)					(1)	2(3)
総合支援資金													0
教育支援資金					(1)			(1)	2(1)	3	1	(1)	6(4)
合計	(3)	1(3)	2(2)	2(1)	(3)	1	(1)	(1)	2(1)				13(20)
令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急小口			1(1)		(1)				1(1)			(1)	2(3)
福祉資金		(2)			(1)			(1)					(4)
総合支援資金						(1)							(1)
教育支援資金					1(1)		(1)		1(1)				1(3)
合計		(2)	1(1)		1(3)	(1)	(1)	(1)	2(2)				4(12)

◆特例貸付フォローアップ相談支援事業（京都府社協補助事業）

（特例貸付借受世帯にかかる償還支援と生活支援業務、地域における生活困窮課題の実態把握）

●対応状況

令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	5	7	12	0	0	4	1	3	0	1	2	5	40
訪問	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	5
来所	1	24	1	22	2	24	1	2	40	17	0	14	148
合計	7	31	13	25	2	28	2	5	40	18	3	19	193
令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	15	15	12	14	18	59	110	126	5	99	122	6	601
訪問	4	2	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	11
来所	0	4	9	22	4	4	1	4	1	29	3	26	107
合計	19	21	21	36	23	63	111	130	7	131	125	32	719

●貸付償還状況

総件数					免除件数（一部免除含む）					猶予件数（猶予終了、猶予後免除を含む）				
小口	初回	延長	再貸付	小計	小口	初回	延長	再貸付	小計	小口	初回	延長	再貸付	小計
130	97	56	63	346	73	60	40	24	197	15	18	10	6	47
131名					50名					24名				

うち現在猶予期間中8名

完了件数（償還残額が0円）					免除以外の完了件数（全額自己資金で償還）				
小口	初回	延長	再貸付	小計	小口	初回	延長	再貸付	小計
95	54	30	29	210	31	0	0	0	31
69名					19名				

◆物価高騰対策緊急生活支援事業（京都府補助事業）

（物価高騰に伴う食糧と生活物資の提供事業および生活状況の実態調査）

対象 特例貸付利用者および支援団体

実施日	内容	利用世帯	利用者数
5月24日	フードパントリー兼相談会	53世帯	132名
7月26日	フードパントリー兼相談会	55世帯	141名
9月27日	フードパントリー兼相談会	52世帯	131名
12月6日	フードパントリー兼相談会	57世帯	148名
12月23日	クリスマスフードパントリー兼相談会	46世帯	46名
1月25日	フードパントリー兼相談会	57世帯	148名
3月15日	フードパントリー兼相談会	54世帯	149名

◆福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業・京都府社協受託事業）

（判断能力が十分でない方の福祉サービス利用料の支払い等の日常的金銭管理支援事業）

業務体制：専門員1名 生活支援員7名

●実利用者数昨年度比較

（単位：人）

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計	昨対率
令和7年度	105	32	28	14	179	105.9%
令和6年度	124	24	9	12	169	

※京都府全体で利用者増、背景として複合的な生活課題を持つ世帯が増

●令和7年度月間延べ利用者及び実利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数		46	46	46	46	47	48	48	48	49	44	51	52	571
内訳	認知症	35	35	35	35	35	36	36	36	36	37	37	38	431
	知的障がい者	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	32
	精神障がい者	8	8	8	8	8	8	8	8	9	3	9	9	94
	その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14
実利用者数		15	15	14	14	14	14	14	14	15	16	17	17	179
内訳	認知症	10	10	9	9	8	8	8	8	8	9	9	9	105
	知的障がい者	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	32
	精神障がい者	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	28
	その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	14

●実利用者世帯状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活保護世帯利用者数		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	38
非課税世帯利用者数		9	9	9	9	10	9	9	9	10	11	11	11	116
課税世帯利用者数		3	3	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	25
月間世帯状況合計		15	15	14	14	14	14	14	14	15	16	17	17	179

●令和7年度月間対応数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者・家族との連絡・相談		68	66	61	57	50	52	50	39	57	64	66	58	688
内訳	認知症	17	32	33	13	12	18	8	11	18	20	18	25	225
	知的障がい者	9	14	10	17	16	13	17	14	14	15	15	14	168
	精神障がい者	19	7	9	7	7	9	12	5	10	12	11	7	115
	その他	23	13	9	20	15	12	13	9	15	17	22	12	180
生活支援員との連絡・相談		41	48	43	28	29	39	44	48	48	60	58	56	542
内訳	認知症	28	30	27	14	11	15	19	24	20	29	29	27	273
	知的障がい者	5	5	3	4	7	10	11	11	10	11	9	9	95
	精神障がい者	4	8	8	6	6	8	9	7	10	13	11	11	101
	その他	4	5	5	4	5	6	5	6	8	7	9	9	73
関係機関との連絡連絡調整		37	66	37	55	43	34	31	35	50	75	67	70	600
内訳	認知症	19	44	26	22	24	17	16	19	19	38	36	37	317
	知的障がい者	3	3	5	8	4	6	5	5	8	11	11	10	79
	精神障がい者	7	4	1	6	5	6	6	4	10	9	6	7	71
	その他	8	15	5	19	10	5	4	7	13	17	14	16	133
カンファレンス参加		1	3	1	3	2	0	1	1	5	3	2	1	23
内訳	認知症	1	3	1	3	0	0	0	0	0	2	2	1	13
	知的障がい者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	精神障がい者	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	1	0	0	1	4	1	0	0	7
その他		9	10	12	3	3	3	0	0	0	0	0	0	40
内訳	認知症	6	7	7	1	2	2	0	0	0	0	0	0	25
	知的障がい者	1	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7
	精神障がい者	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	その他	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4

●令和7年度利用者状況別対応数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
認知症高齢者		71	116	94	53	49	52	43	54	57	89	85	90	853
知的障がい者		18	24	20	30	28	29	34	30	32	37	35	33	350
精神障がい者		31	20	20	19	19	23	27	16	31	34	28	25	293
その他		36	33	20	44	31	24	22	23	40	42	45	37	397
総対応件数		156	193	154	146	127	128	126	123	160	202	193	185	1893

地域包括支援センター（町受託事業）

1. 事業内容

高齢者の総合相談窓口、「総合相談」・「権利擁護」・「介護予防ケアマネジメント」・「ケアマネージャー支援」の業務を行います。地域包括ケアシステム構築のためのネットワーク事業の実施しております。

2. 職員体制

係長、正職員3名、嘱託2名

3. 令和7年度目標

■2025年に入り、第一次ベビーブームの団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり、相談実人数が増加傾向にあると共に複雑な課題を抱える利用者・家族の相談も増加傾向にある。今後も多職種や他機関との連携を図って支援力を強化していきます。

■オンラインでの研修やLINEWORKS、メールでの連絡を積極的に活用しつつ、顔の見える関係も大切にしていきます。

■認知症の相談も増加傾向にあり、認知症への理解を深める取り組みを本人・介護者（家族）、地域の活動者へのサポートを進めていきます。

■総合相談内容が多様で複雑化している。研修等を受講し自己研鑽に努めます。

4. 年間報告

本年度は、相談対応の質的变化への対応、介護予防の推進、および地域における認知度向上を軸に業務を展開いたしました。

◆相談・ケアマネジメントの実績と多職種連携

総合相談件数は前年度比で横ばいであるものの、介護保険や保健福祉サービスに関する相談は増加傾向にあります。予防給付ケアマネジメント件数は1,935件（前年度比169件増）と着実に伸びました。また、各種ネットワーク事業への参画を通じて多職種連携を深め、生活支援体制の強化を図りました。

◆介護予防事業の成果と地域交流

健康体操倶楽部「和逢」は定員25名に対し平均登録23名と、高い稼働率を維持いたしました。登録者の半数が85歳以上（うち90歳以上が4名）を占めていますが、介護保険に移行せず自力で来所・参加されており、主体的な活動による高い介護予防効果がうかがえます。さらに、盛況に終わった軽スポーツ大会の実施や、小学生を対象とした認知症サポーター養成講座の開催など、多世代への啓発と地域交流を促進いたしました。

◆センター認知度の推移と今後の展望

令和8年2月の町ニーズ調査等において、当センターを「知っている」との回答が前回の7.3%から22.9%へ大幅に増加し、認知の広がり（合計52.2%）が確認されました。「乙訓介護FESTA」やコミュニティカフェ事業、各種養成講座など、地道な地域活動が実を結びつつあると考えております。次年度もさらなる認知度向上と、多様化する相談ニーズへの柔軟な対応を目指してまいります。

6. 次年度の課題

団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者となられたことで、大山崎町においても介護保険の需要が急増しています。介護保険申請代行件数は、令和5年度の78件から令和6年度には156件と倍増し、令和7年度も140件と高水準で推移しています。また、相談件数についても令和6年度の7,377件から令和7年度は7,626件へと増加傾向にあり、今後もこの流れは続くことが予測されます。

こうした中、サービスの質を維持しながらいかに対応していくかが課題です。現在、地域包括支援センターは「総合相談窓口」として、認知症や独居、虐待、ゴミ屋敷、生活困窮など、複数の問題が複雑に絡み合ったケースへの対応も増加しております。さらに、相談業務に加えて地域ケア会議の運営、介護予防プランの作成、関係機関との連携業務など、職務は多岐にわたります。業務の多様化・複雑化による負担が増大する中で、いかに効率的に業務遂行するかが課題です。

■総合相談

(高齢者の相談を全般的に担う事業。土曜日は交代制で対応)

◆相談延件数

(単位：件)

令和7年度	電話	訪問	来所	その他	合計
本人・家族	3,041	1,092	219	187	4,539
関係機関ほか	2,339	236	129	1,035	3,739
計	5,380	1,328	348	1,222	8,278
令和6年度	電話	訪問	来所	その他	合計
本人・家族	3,002	1,167	280	127	4,576
関係機関ほか	2,413	296	161	878	3,748
計	5,415	1,463	441	1,005	8,324

◆内容別延件数

相談内容としては、介護保険に関する相談が一番多く、権利擁護及び成年後見に関する相談も年々増加している。原因は不明だが9月に虐待の疑いの相談が集中して発生しました。

相談内容	令和7年度
介護保険その他の保健福祉サービスに関すること	7,626
権利擁護に関すること (うち、虐待に関すること)	205 (115)
地域支援事業に関すること(健康体操倶楽部関係)	100
介護支援専門員支援	31
健康相談	34
その他	282
合計(のべ件数)	8,278

■介護予防事業

◆予防給付ケアマネジメント

(4月～3月・要支援者認定の介護支援計画作成)

◆包括担当 (単位：件)

令和7年度	新規	継続	計
4月	6	115	121
5月	0	119	119
6月	5	118	123
7月	5	94	99
8月	5	96	101
9月	4	100	104
10月	1	104	105
11月	6	103	109
12月	4	102	106
1月	4	102	106
2月	1	97	98
3月	3	98	101
合計	44	1248	1292
令和6年度	新規	継続	計
4月	5	106	111
5月	6	107	113
6月	11	112	123
7月	2	117	119
8月	3	114	117
9月	4	113	117
10月	3	113	116
11月	2	114	116
12月	3	109	112
1月	4	109	113
2月	6	111	117
3月	7	116	123
合計	56	1341	1397

◆委託 (単位：件)

令和7年度	新規	継続	計
4月	3	32	35
5月	1	32	33
6月	0	33	33
7月	2	57	59
8月	3	60	63
9月	1	58	59
10月	5	61	66
11月	3	62	65
12月	0	59	59
1月	0	57	57
2月	2	57	59
3月	1	54	55
合計	21	622	643
令和6年度	新規	継続	計
4月	2	26	28
5月	0	28	28
6月	1	28	29
7月	3	28	31
8月	0	30	30
9月	3	27	30
10月	0	29	29
11月	1	30	31
12月	3	30	33
1月	1	33	34
2月	3	32	35
3月	0	31	31
合計	17	352	369

◆介護予防体操事業「健康体操倶楽部～和逢～」

(運動機能向上、認知症予防、閉じこもり予防、要介護状態への進行予防、社会交流を目的に週1回短時間の集団運動指導を行う。) 講師：京都済生会病院・理学療法士

令和7年度	実施回数	延利用者数	男性登録	女性登録	介護保険移行	定員25名
4月	3	67	7	18	0	
5月	3	64	7	17	1	
6月	3	61	7	17	1	
7月	3	53	7	16	1	
8月	3	56	7	15	0	
9月	3	59	7	15	0	
10月	3	54	7	15	0	
11月	3	51	8	16	0	
12月	3	62	8	15	0	
1月	3	52	8	16	0	
2月	3	58	8	16	1	
3月	3	56	7	16	0	
合計	36	693	88	192	4	
令和6年度延べ利用者数		705				

■圏域ネットワークの構築事業

◆各関係団体とのネットワーク

(乙訓圏域及び町内の関係機関連携会議等)

ネットワーク名	内容	開催頻度
介護支援専門委員会	包括主催の町内居宅事業所、行政との連絡会	12回/年
乙訓地域包括ケアシステム交流会	地域包括ケアシステム構築を目的とした医療・福祉・保健のネットワーク交流会 乙訓圏域ネットワーク	3回/年
乙訓地域包括ケアシステム交流会世話人会	乙訓地域包括ケアシステム交流会の事前会議	3回/年
在宅療養手帳委員会	乙訓圏域の医療・福祉保健連携ツールネットワーク	6回/年
乙訓地域包括ケアシンポジウム実行委員会	乙訓圏域を対象とした啓発シンポジウムネットワーク	12回/年
町民協定例会	町内民生児童委員連絡会とのネットワーク	12回/年
町包括運営協議会	町主催の地域支援センターの運営会議・事業計画、報告、予算管理、決算報告等実施	2回/年
町・包括定例連絡会	町と地域包括支援センターによる毎月の定例会	12回/年
京都府地域包括支援センター連絡協議会 乙訓グループ	2市1町8包括の連絡会	2回/年
地域密着型特養 洛和ヴィラ天王山運営推進会議	地域密着型特別養護老人ホームの運営会議	6回/年
洛和グループホーム天王山・大山崎運営推進会議	町内2事業所のグループホーム運営会議	6回/年
地域リハビリテーション乙訓地域連絡会	乙訓地域内の医療・保健・福祉分野の機関が集まりリハビリ事業の推進に関する会議	1回/年
乙訓地域認知症疾患医療連携協議会	認知症サポート医、行政、各市町の地域包括支援センターが集まり取り組みについて協議	1回/年

◆介護FESTA2025への参加協力

(町内の介護支援専門員等で実行委員を選出して企画開催するフェスタへの協力)

11月23日(日)開催

講演会「くらしを支えるチームとは」天王山草野クリニック他、各種相談会・体力測定など

■生活体制支援整備事業（町受託事業）

（生活支援コーディネーターを配置し、高齢者や家族が地域で暮らしやすい環境を実現するために地域での課題を解決し、支えあう体制作りを進める事業）

◆プロジェクト0（プロジェクトオー）

（住民・福祉医療専門職やその他企業等と共に地域課題について協議の場。町独自の地域づくりにつながる事業の取組・発展について話・創出していく）

日時	場所	協議内容	令和7年度実績	
			住民	専門職・行政
5月9日	なごみの郷	軽スポーツの普及について	4	5
5月22日	なごみの郷	軽スポーツ大会について	1	3
6月26日	なごみの郷	軽スポーツ大会について	1	3
7月24日	なごみの郷	軽スポーツ大会について	2	3
8月28日	なごみの郷	軽スポーツ大会について	3	5
9月25日	なごみの郷	軽スポーツ大会について	2	4
10月23日	なごみの郷	軽スポーツ大会について	1	3
11月27日	なごみの郷	軽スポーツ大会について	1	3
11月28日	町体育館	町主催「軽スポーツ大会」	36	7
12月25日	なごみの郷	軽スポーツ大会の振り返り、新たなサロンについて	2	4
1月22日	なごみの郷	新たなサロンについて	2	2
2月26日	なごみの郷	プリムローズサロン開設準備について	5	3
3月26日	なごみの郷	プリムローズサロン広報、役割分担について	3	2
合計		令和7年度総合計	93	63
		令和6年度総合計	90	

◆助け愛隊養成講座（自ら介護予防に取り組む方を養成する講座とそのフォローアップ講座の開催）

日時	場所	内容	令和7年度 参加者数	令和6年度 参加者数
9月29日	なごみの郷2階	新規養成講座 コミュニティコーピング	19	(71)
10月24日	なごみの郷2階	喪失について学ぶ（フォローアップ）	22	(71)
3月6日	なごみの郷2階	地域共生社会とは何かを学ぶ（フォローアップ）	15	
3月9日	なごみの郷2階	新規養成講座 実践者報告	5	
3月13日	なごみの郷2階	地域での支え合いの重要性について、多様な支え合いのあり方について学ぶ（フォローアップ）	20	

新規12 新規5名

■コミュニティカフェ推進事業（町受託事業）

◆いきいきサロンの運営支援

（ボランティア団体によるレクリエーションやおしゃべり等の交流を通じたサロン活動の運営）

開催日	場所	協力団体	内容	令和7年度
4月2日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	1
4月8日	円明寺が丘自治会館	ひまわり	歌謡舞踊	13
5月2日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	2
5月15日	洛和ヴィラ天王山	陽だまり	ミュージックケア	14
6月4日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	2
6月5日	洛和ヴィラ天王山	民協高齢者部会	防犯落語	17
6月10日	円明寺が丘自治会館	ひまわり	ハーモニカ演奏	13
7月2日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	2
7月10日	円明寺が丘自治会館	民協高齢者部会	防犯落語	15
7月23日	洛和ヴィラ天王山	ひまわり	童謡を楽しもう	15
8月6日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	2
8月12日	円明寺が丘自治会館	ひまわり	ミュージックケア	9
9月3日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	1
9月11日	洛和ヴィラ天王山	民協高齢者部会	イスヨガ	9
9月16日	円明寺が丘自治会館	昔懐歌を楽しむ会	昔懐かしい歌を楽しむ	23
10月1日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	2
10月2日	洛和ヴィラ天王山	民協高齢者部会	イスヨガ	21
10月14日	円明寺が丘自治会館	ひまわり	軽スポーツ	13
11月5日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	1
11月6日	円明寺が丘自治会館	民協高齢者部会	イスヨガ	27
12月4日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	1
12月9日	円明寺が丘自治会館	ひまわり	ハーモニカ演奏	11
12月10日	洛和ヴィラ天王山	ひまわり	童謡を楽しもう	12
12月11日	洛和ヴィラ天王山	彩花	ミニブーケと花瓶	15
1月7日	谷田会館	和来隊	脳活性化ゲーム	0
1月15日	洛和ヴィラ天王山	陽だまり	ミュージックケア	17
2月4日	谷田会館	和来隊	茶話会	2
2月17日	円明寺が丘自治会館	ひまわり	ミュージックケア	11
3月4日	谷田会館	和来隊	茶話会	3
3月12日	洛和ヴィラ天王山	彩花	ガラスドームフラワー	11
3月17日	円明寺が丘自治会館	昔懐歌を楽しむ会	昔懐かしい歌を楽しむ	28
令和7年度合計				313
令和6年度合計				246

◆いきいきサロン連絡会

（いきいきサロン実施協力団体との情報共有および意見交換を目的に実施）

開催日	場所	内容	令和7年度
9月30日	なごみの郷2階	運営・内容に関する意見交換、下半期の活動・事業費のご案内	2団体
3月25日	なごみの郷2階	運営・内容に関する意見交換、来年度の活動・事業費のご案内	4団体

◆いきいきサロンバスツアー

（日帰り旅行で散歩、会話、買物をするこでフレイルを予防し在宅生活維持へと繋げる）

開催日	協力団体	行き先	令和7年度	令和6年度
5月27日	彩花	草津市立水生植物園みずの森	24名	24名

■ 認知症等事業（町受託事業）

（認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり）

◆ 認知症サポーター養成講座

（認知症という病気の理解と認知症の人や家族にやさしい地域づくりの為の講座を開催）

月日	対象	令和7年度	令和6年度
8月19日	大山崎小学校ともだちクラブ（学童）にて認知症サポーター養成講座	37	
9月20日	認知症サポーター養成講座	12	
2月3日	第二大山崎小学校福祉授業にて児童向け認知症サポーター養成講座	41	
	合計	90	39

◆ ステップアップ講座

（認知症の人や家族の支援ニーズをつなぐ具体的活動、チームオレンジ大山崎の結成）

月日	対象	令和7年度
11月5日	認知症サポーター養成講座を修了された方	28
	合計	28

◆ わが家

（初期認知症の方の居場所づくり 毎月第4月曜日開催）

月日	地域	内容	令和7年度	令和6年度
4月28日	円明寺	PTによる健康チェック	8	
6月23日	円明寺	折り紙	7	
7月28日	円明寺	フレイル予防体操	7	
8月25日	円明寺	沖縄三線の演奏会	8	
9月22日	円明寺	季節の折り紙	6	
10月27日	円明寺	フレイル予防体操	8	
12月22日	円明寺	季節の折り紙	9	
1月26日	円明寺	認知症予防エクササイズ	8	
3月23日	円明寺	春の歌を歌おう	9	
		合計	70	85

◆ ふらっと遊カフェ

（初期認知症の方の居場所づくり 毎月第2火曜日開催）

月日	地域	内容	令和7年度	令和6年度
4月8日	大山崎	認知症の薬について、アコーディオン演奏	4	
5月13日	大山崎	認知症の薬について、アコーディオン演奏	3	
6月10日	大山崎	地域精神科について、アコーディオン演奏	5	
7月8日	大山崎	熱中症について、アコーディオン演奏	5	
8月12日	大山崎	障がい者特別手当について、アコーディオン演奏	3	
9月9日	大山崎	高齢者の病気について、アコーディオン演奏	4	
10月14日	大山崎	コロナフレイルについて、アコーディオン演奏	4	
11月11日	大山崎	体調管理について、アコーディオン演奏	5	
12月9日	大山崎	健康長寿について、アコーディオン演奏	5	
1月13日	大山崎	認知症予防について、アコーディオン演奏	4	
2月10日	大山崎	健康と要介護の間について、アコーディオン演奏	4	
3月10日	大山崎	健康寿命について、アコーディオン演奏	5	
		合計	51	53

◆介護者の会

(介護の悩み、不安を持っている方のエンパワメントグループ 毎月第2金曜日開催)

月日	地域	内 容	令和7年度	令和6年度
4月11日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	3	
5月9日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	4	
6月13日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	2	
7月11日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	4	
8月8日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	2	
9月12日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	4	
10月10日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	2	
11月14日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	4	
12月12日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	3	
1月9日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	5	
2月13日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	4	
3月13日	なごみの郷	一か月の出来事を話し合う	2	
合計			39	51

◆大山崎町オレンジわんわんパトロール

(ペットの飼い主に認サポ養成講座を受講、登録後、散歩時の見守り活動に協力)

月日	登 録	令和7年度	令和6年度
9月20日	認知症サポーター養成講座	1	
合計		1	0

◆世界アルツハイマー月間展示ブース

大山崎町役場1階ロビーで上記事業の啓発物品、町の認知症対策事業を展示
令和7年9月5日～19日実施

◆京都市市町村認知症施策連絡会

令和7年8月28日 京都府医師会館

◆オレンジロードつなげ隊

令和7年7月18日オレンジロードつなげ隊のマリーゴールド種封入作業依頼受諾
20粒ずつ50セット、11月5日ステップアップ講座にて封入作業完了

■在宅看護実習（1日）受け入れ

◆藍野大学看護学部3回生

令和7年9月～令和8年1月 合計6名

ケアプランセンター

1. 事業内容

要介護認定（一部要支援認定）を持つ高齢者等の介護サービス計画を作成し、利用サービスの調整を行っております。

2. 職員体制

センター長1名、正職2名、嘱託2名

3. 令和7年度目標

- 正職員標準担当件数35件以上の維持（ICTの活用と新規受け入れの調整）
- 各自のケアマネジメント力の向上（研修の積極的参加、定期的なケアプラン点検と勉強会、週1回の居宅会議と毎朝のミーティングの活用、同行訪問）
- 他部署多職種との連携、地域とのつながり強化（地域ケア会議や社協行事の参加、社協としての強みを利用者の支援に活かす）

4. 年間報告

本年度第4四半期は、職員体制の変更に対応しつつ、質の高いケアマネジメントの維持と地域連携の強化に努めました。

◆業務実績と体制変更への対応

第4四半期において、正職員の標準担当件数35件以上を維持・達成いたしました（内訳平均：要介護約136件、要支援約32件）。12月末に嘱託職員1名が退職し体制が変わりましたが、新規利用者の受け入れを継続し、サービス創出へつなげる事例も増加しています。

◆居宅会議におけるケース検討の充実

毎回の居宅会議では各ケアマネジャーが事例報告を行い、特に課題のあるケース（権利擁護や相談支援との連携、遠方家族への対応、徘徊等）には時間をかけて検討を重ねました。今後も事業所全体で知見を共有し、より良い支援の提供を目指します。

◆地域連携と総括

地域ケア会議への参画を通じて多職種と「不足する社会資源」について意見交換を行ったほか、地域の集まりから移動スーパーや新たな集いの場の情報を獲得し、ケアマネジメントへの活用を図りました。本年度は体制変更等により個々の負担が増す状況となりましたが、社協職員とケアマネジャーの役割を両立し、各自が目標達成に向けて真摯に取り組んだと評価しています。

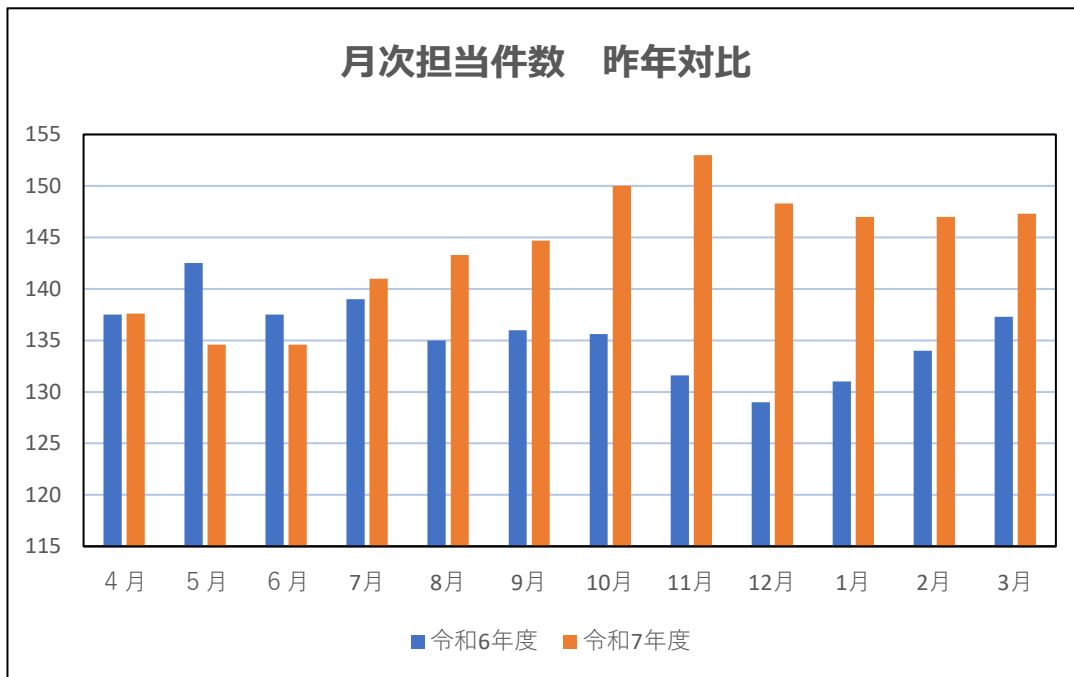
5. 次年度の課題

- ・正職員の標準担当件数35件以上の維持を引き続き目標としていますが、要支援担当件数の増加が課題となっています。また、業務効率化に向けたケアプランデータ連携システムの活用も課題です。
- ・動画研修の積極的な活用等を通じて、各ケアマネジャーのケアマネジメント力の向上を引き続き目標としています。加えて、令和9年度の法改正を見据え、早期の情報収集と準備を進めることが課題であると認識しています。
- ・他部署・多職種との連携や地域とのつながりの強化を引き続き目標としています。利用者支援の方向性や地域での出来事について、部署内での検討をより一層深めていくことを令和8年度の重点課題としています。また令和8年度は、新たな取り組みとして、家族交流会を企画中です。

◆令和7年度 月次担当件数

出所：ほのぼのNEXT 担当ケアマネ毎利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨対率
令和7年度	137.6	134.6	134.6	141	143.3	144.7	150	153	148.3	147	147	147.3	1728	106.3
令和6年度	137.5	142.5	137.5	139	135	136	135.6	131.6	129	131	134	137.3	1,626	



デイサービスセンター

1. 事業内容

要介護認定を持ち、在宅生活されている高齢者に通所していただき、入浴、食事、社会交流の機会の援助を行っております。

2. 職員体制

管理者（次長兼務）1名、正職3名、嘱託2名、臨時職員19名

3. 令和7年度目標

- 1日平均利用者数27人確保するための利用者ニーズに合った体制づくり、地域の介護事業所との連携を強化。
- 利用者満足度調査・ケアマネジャーアンケートから作成した業績改善計画に基づくなごみの郷の特色を強化する（理学療法士による個別機能訓練強化および評価、ミュージックケア定期開催、地域ボランティアさんとの連携）
- 予防期から重度期にあたる支援プログラムづくりによる長期利用者の拡大

4. 第4四半期までの進捗状況

本年度は「1日平均利用者数27名の確保」および「利用者ニーズに合致した体制構築」を最優先事項に掲げ、新体制のもとで新たな仕組みの導入や業務改善、営業活動の強化を積極的に推進してまいりました。

◆地域連携と営業活動の強化

曜日による利用者数の偏りを解消するため、地域のケアマネジャーに対して空き情報や日々の様子を迅速かつ定期的に発信するなど、情報共有の強化に努めてまいりました。この地道な営業活動が実を結び、年間で40名の新規契約を締結することができました。逝去や施設入所等による中止・休止者が20名発生したものの、前年度比で延べ利用者数は298名の増加を記録しております。

◆利用状況の実績と内訳

3月末日時点の利用状況につきましては、週延べ利用者数210人の目標に対し、実績は週171人となり、目標達成率は約81%となりました。直近の詳細な内訳としては、体験利用者13人、新規利用者8人の受け入れを行った一方で、利用中止は7人（逝去2人、施設入所5人）となっております。

◆行事・地域交流活動とサービスの特色強化

地域に開かれた施設としての信頼を高めるため、ボランティアグループや地域住民を積極的に招いたイベントを開催いたしました。年初の小倉神社への初詣をはじめ、日頃から演奏会やマジックショーを開催し、その様子を「なごみの郷だより」で積極的に広報いたしました。特に3月には、京都フィルハーモニー室内合唱団所属の方をお招きし、本格的な演奏会を開催したことで、サービスの特色強化へとつなげることができました。

◆組織運営と人材育成・内部体制の整備

組織運営の面では、正看護師を中心とした「迅速な情報発信と課題解決」を重点課題とし、現場におけるスピーディーな対応を徹底いたしました。人材育成においては、個々の状況に合わせた研修プログラムを実施し、周囲の職員による適切なフォロー体制も整えることで、それぞれの資格、職歴等に配慮した円滑な育成環境を支援いたしました。また、再入職した職員が即戦力として活躍したことも、チーム全体の体制強化とサービスの質向上に大きく寄与しております。

◆収支状況の推移

収支につきましては、第4四半期に前年度後半からの減収の影響が残る形となりました。しかし、年度後半にかけて取り組んできた利用者数の増加策が功を奏し、現在は着実な回復基調にあります。次年度も引き続き、選ばれる施設づくりと安定経営に努めてまいりました。

6. 次年度の課題

次年度の重点課題

今年度は前年度比で利用者数が大きく伸長したものの、目標として掲げる「週延べ利用者数210名（1日平均27名以上）」の目標達成には至っておらず、依然として改善の余地が残されています。これらを踏まえ、次年度は以下の3点を最優先課題として取り組んでまいります。

◆稼働率の安定化と「月間延べ利用者数700名」の常態化

目標達成の阻害要因となっている「曜日による稼働の偏り」の解消が急務です。ケアマネジャーへの情報発信の迅速化・システム化を推進し、潜在的なニーズを確実に取り込める、戦略的かつ安定的な受け入れ体制を確立することが求められています。

利用者増に対応した職員体制の増強と労働環境の整備

利用者数の増加に伴い、サービス品質を維持・向上させるための職員体制の増強が不可欠です。多様な人材を確保できるよう、業務のDX化による事務負担の軽減や、柔軟な働き方の導入など、職員がケアに専念でき、かつ「選ばれる職場」となるための抜本的な環境整備が課題となっています。

◆安全なサービス提供のための計画的な設備投資

サービスの安全性と快適性を継続的に担保するため、老朽化した設備への対応が不可欠な段階にあります。利用者様の利便性向上と職員の業務効率・安全性確保を両立させるため、中長期的な視点に立った適切な設備更新と投資計画の実行が求められています。

◆令和7年度 月次延利用者数

出所：ほのぼのNEXT利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年対比
令和7年度	562	566	539	601	627	616	641	606	595	579	591	623	7146	104.4
令和6年度	639	670	601	614	566	546	585	562	521	501	490	553	6848	

◆令和7年度 月次登録者数

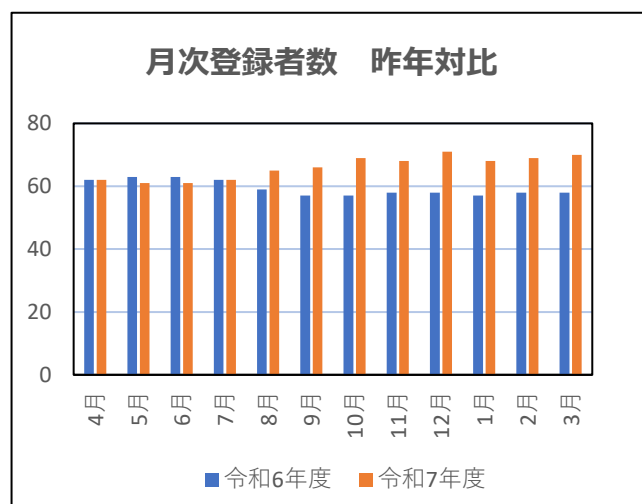
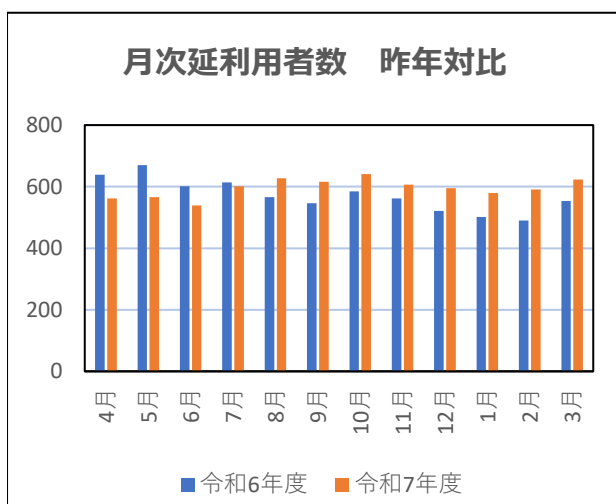
出所：ほのぼのNEXT利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年対比
令和7年度	62	61	61	62	65	66	69	68	71	68	69	70	792	111.2
令和6年度	62	63	63	62	59	57	57	58	58	57	58	58	712	

◆令和7年度 利用者平均要介護度

出所：ほのぼのNEXT利用状況統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男	2.4	2.4	2.1	2.3	2.3	2.1	1.9	2	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3
女	2	2	2	1.9	2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0
平均	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1	2.0	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3	2.2



ホームヘルプセンター

1. 事業内容

要介護認定をお持ちの高齢者及び障がいのある方（身体・知的・精神）のお宅に訪問し、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援を行っております。

2. 職員体制

センター長1名、正職1名、嘱託2名、臨時14名

3. 令和7年度目標

■1か月あたりの利用者数90人以上を維持し安定した事業運営を行う

■訪問介護員の新規採用強化

■訪問介護員の個別研修を行い、介護技術、接遇の向上を強化する

4. 年間報告

本年度は、安定した利用者数の維持、ニーズに合わせた柔軟なサービス提供、および職員の専門性向上を柱に業務を展開いたしました。

◆利用者の動向と相談傾向

年間平均の利用者数は95名前後と、月90名以上を安定して維持いたしました。年間の新規利用者は41名、終了者は39名でした。第4四半期（1月～3月）は新規12名に対し終了10名（逝去2名、長期入院2人、施設入所4人、その他2名）となり、特に2月に7名が終了となりました。終了理由は転倒による入院や認知症進行に伴う施設入所のほか、家族同居の開始などです。また、同期の新規利用者のうち7名が、本人ではなく家族からの相談を契機に利用が開始された点が特徴的でした。

◆人材育成と人員体制の強化

訪問介護員の個別研修では、各自が深めたい分野を選択する形をとり、「高齢者の低栄養の原因と改善方法」や「視覚・聴力の老化」について学びを深めました。人員面では、新たに3名の訪問介護員を迎え、それぞれのライフスタイルに合わせた多様な勤務形態で体制を強化いたしました。

◆障害者支援と柔軟な対応

障害者支援の利用者様からの通院介助等の依頼に対しても、臨機応変に対応できるようガイドヘルパーと連携し、地域の多様な要望に寄り添う体制を整えました。

5. 次年度の課題

引き続き、利用者の残存能力を向上、維持しながら在宅生活が続けられるよう、多職種や家族との連携を図りながら、サービスを提供していきます。そのためにも訪問介護員の増員、個々のスキルアップにも力を注いでいきます。

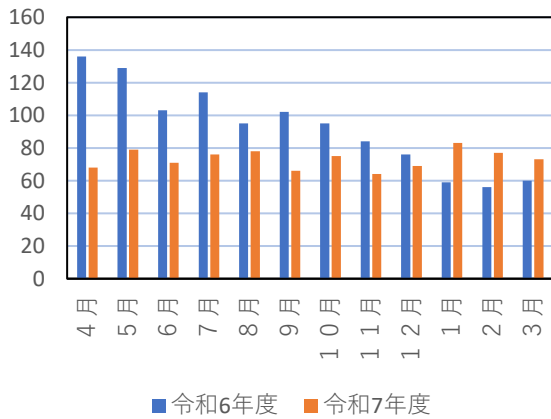
令和7年度 事業運営状況

◆介護保険事業

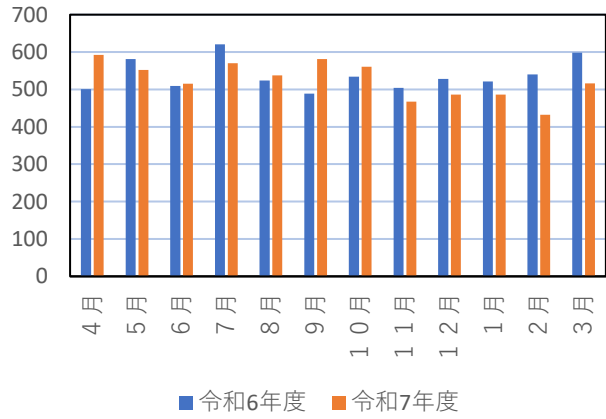
出所：月間業務実績表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨対率
令和7年度	介保利用者(人)	82	77	79	82	83	82	83	81	79	81	80	81	970	107.4
	介護(人)	61	57	58	60	59	58	59	57	55	56	56	56	692	106.3
	要支援(人)	21	20	21	22	24	24	24	24	24	25	24	25	278	110.3
	身体介護(回)	329	284	255	317	328	341	318	261	289	292	249	298	3,561	90.5
	生活援助(回)	68	79	71	76	78	66	75	64	69	83	77	73	879	79.3
	身体→生活(回)	263	268	260	253	210	240	243	206	197	194	183	218	2,735	108.8
	要支援(回)	97	89	91	111	97	99	115	95	98	105	107	110	1,214	112.2
	合計(回)	757	720	677	757	713	746	751	626	653	674	616	699	8,389	97.1
令和6年度	介保利用者(人)	71	72	75	74	75	72	75	73	77	76	81	82	903	
	介護(人)	51	52	54	54	54	53	52	53	55	55	58	60	651	
	要支援(人)	20	20	21	20	21	19	23	20	22	21	23	22	252	
	身体介護(回)	325	415	343	412	321	279	303	279	299	302	308	350	3,936	
	生活援助(回)	136	129	103	114	95	102	95	84	76	59	56	60	1,109	
	身体→生活(回)	176	166	166	209	203	210	231	225	229	219	232	248	2,514	
	要支援(回)	82	93	91	88	84	81	97	81	94	93	93	105	1,082	
	合計(回)	719	803	703	823	703	672	726	669	698	673	689	763	8,641	

生活援助利用回数 昨年対比表



身体・身生合計利用回数 昨年対比表



◆障がい者総合支援法事業

出所：月間業務実績表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨対率
令和7年度	自立支援給付利用者	10	10	11	11	11	11	11	9	12	13	12	12	133	122.0
	移動支援利用者	10	9	10	8	7	10	10	11	11	10	10	12	118	102.6
	居宅介護(回)	38	41	46	54	44	47	57	41	54	57	24	65	568	143.1
	行動援護(回)	3	3	3	3	3	3	2	4	3	4	3	3	37	90.2
	移動支援(回)	32	27	20	18	14	22	20	28	23	22	23	27	276	118.5
令和6年度	自立支援給付利用者	7	8	8	8	9	9	10	10	10	10	10	10	109	
	移動支援利用者	8	8	8	10	8	7	11	10	11	11	11	12	115	
	居宅介護(回)	22	25	24	22	32	35	42	37	44	39	35	40	397	
	行動援護(回)	4	4	3	4	3	4	3	4	2	4	3	3	41	
	移動支援(回)	14	14	14	13	13	16	23	21	22	20	27	36	233	

障がい者相談支援事業所（町受託事業）

1. 事業内容

障がいのある人が安心して地域で生活できるよう、必要な情報提供や相談支援活動を行う。障がいのある方（身体・知的・精神）の障がいサービス計画を作成しております。

2. 職員体制

センター長（局長兼務）、嘱託2名

3. 令和7年度目標

- 毎月の計画相談請求数22件以上を目安とした経営
- 乙障圏域自立支援協議会への継続参加
- 乙訓障がい者事業所連絡会との積極的連携（7年度会長）

4. 年間報告

本年度は、地域における指導的役割の遂行、人員体制の強化、および効率的なケースマネジメントによる経営改善を重点課題として取り組みました。

◆地域貢献と外部役職の遂行

昨年度に続き乙訓障がい者事業所連絡協議会の役員を務め、今年度は会長に就任いたしました。また、自立支援協議会においては運営委員と児童発達支援プロジェクトを担当し、地域福祉の向上に努めました。相談ケースの傾向として、障がい単体の課題に留まらず、生活全般にわたる複合的な相談に対応する事例が増加しております。

◆運営実績と財務面の課題

組織内では嘱託職員2名を配置して体制強化を図り、12月には4月異動職員の研修を修了いたしました。しかし、12月まで新規受け入れを調整しながらの運営であったことが響き、年度末時点の担当ケース数は前年比94.4%、平均請求数は18.25となりました。目標とする平均請求数22には届かず、金額にして約50万円の赤字決算という課題を残しました。

◆改善に向けた取り組みと今後の展望

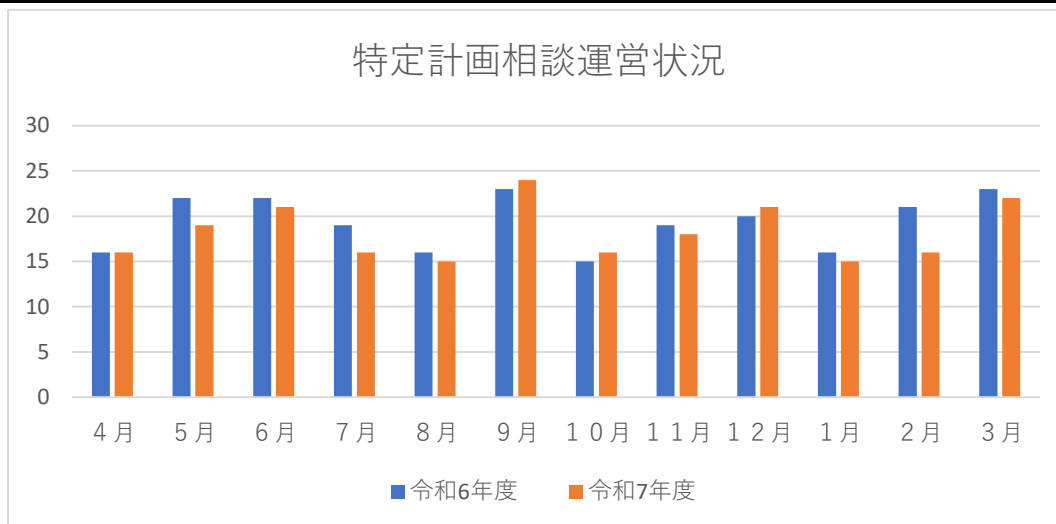
この状況を打開するため、1月以降は新規受け入れを本格的に拡大いたしました。さらに、隣市の事業所から講師を招聘し、ケースマネジメントおよび適切なモニタリング数の改善に向けた研修を実施いたしました。これらの取り組みにより、3月以降の業績は回復傾向にあります。次年度は体制を維持しつつ、安定した黒字経営と質の高い支援の両立を目指してまいります。

5. 次年度の課題

複雑多様なケースは増加しておりますが、1ケース対応にかける時間の均一化と適切なモニタリング数への修正で1か月あたりの平均請求数を改善していくことが課題となっております。また引き続きICT化による運営の合理化と事業所の特徴上求められる対面で相談に応じる体制の両立が課題となってきます。

◆令和7年度 特定計画相談運営状況 出所：月間業務実績表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨対率
令和7年度	町内	14	19	21	15	14	24	14	18	20	14	16	21	210	95.5
	町外	2	0	0	1	1	0	2	0	1	1	0	1	9	75.0
	合計	16	19	21	16	15	24	16	18	21	15	16	22	219	94.4
令和6年度	町内	15	21	21	17	16	22	14	18	20	15	20	21	220	
	町外	1	1	1	2	0	1	1	1	0	1	1	2	12	
	合計	16	22	22	19	16	23	15	19	20	16	21	23	232	



◆障害別一般相談利用状況

実人数は相談継続実数、内訳は障害重複あるため実数値より大。(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年計	昨対率
実人員	35	32	28	27	23	31	25	22	29	21	27	28	328	388	84.5
身体障害	8	10	8	5	6	11	6	6	10	7	10	11	98	119	82.4
重症心身	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
知的障害	13	15	12	10	8	10	9	9	12	8	12	13	131	159	82.4
精神障害	18	15	13	14	12	11	10	11	12	9	8	10	143	197	72.6
発達障害	3	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	9	39	23.1
高次能	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	12	8.3
その他(難病)	1	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	6	21	28.6
月毎合計	43	40	33	30	27	35	29	27	34	24	32	34	388	554	70.0

◆支援方法

(単位：件)

	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
4~3月	246	75	24	374	13	5	70	17	824
前年度合計	242	134	25	679	59	37	170	12	1358
昨対率	101.7	56.0	96.0	55.1	22.0	13.5	41.2	141.7	60.7

◆支援内容

(単位：件)

	サービスの利用	障害病状の理解	健康医療	不安解消情緒安定	保育教育	家族関係人間関係	家計経済	生活技術	就労	社会参加余暇活動	権利擁護	その他	計
4~3月	504	340	403	450	8	355	125	637	314	131	33	39	3339
前年度合計	913	746	595	918	32	447	131	451	394	176	3	700	3418
昨対率	55.2	45.6	67.7	49.0	25.0	79.4	95.4	141.2	79.7	74.4	1100.0	5.6	97.7

■ピアカウンセリング事業 (町受託事業)

- お出かけ会 07月13日(日) 10:00~ ニフレル吹田 14人
- おさんぽ会 11月23日(日) 11:00~ おもてなしアンヌアール 10人
- お楽しみ会 03月15日(日) 13:00~ どら焼きをつくって縁日を楽しもう 19人

その他

■職員外部研修

	研修名	日程	部署	人数
1	第一回在宅療養手帳	4月23日	包括	1
2	温ったか京都・寄り添いワーカー	4月25日	地域福祉	2
3	運営基準	5月21日	居宅	1
4	富士フィルムセミナー	5月21日	総務	2
5	成年後見人制度	5月21日	総務	1
6	更新過程Ⅰ・Ⅱ	6月21日	居宅	1
7	長寿社会開発センターセミナー	6月10日	包括	1
8	京都福祉人材育成認証制度 支援セミナー	6月11日	総務	1
9	ボランティア担当者会議	6月16日	地域福祉	1
10	会計セミナー	6月18日	総務	1
11	事例検討会金魚鉢方式	6月25日	居宅	1
12	認知症地域支援推進員合同研修	6月27日	包括	1
13	生活支援コーディネーター初任者研修	7月1日	包括	1
14	相談支援現任研修	7月1日	地域福祉	1
15	若年性認知症研修	7月25日	包括	2
16	キャラバンメイト	8月6日	包括・ヘルプ	2
17	災ボラ ICT活用	8月8日	総務	1
18	企業内人権啓発	8月25日	総務	1
19	フォロワーシップ力向上	9月1日	居宅	1
20	認知症カフェスタッフ学習会	9月6日	包括	1
21	精神保健福祉家族大会 みんなねっと	9月6日	ヘルプ	1
22	佛教大学社会福祉実習連絡研修会	9月6日	総務	1
23	キャリアアップ研修(初任者)	9月9日	包括・総務・デイ	3
24	福祉サービス利用援助事業事例検討	9月9日	地域福祉	1
25	社会福祉協議会活動全国会議	9月10日	総務	1
26	在宅介護支援センター リーダー職員研修	9月24日	包括	1
27	リハビリテーション従事者研修	9月25日	ヘルプ	4
28	20251001 主任介護支援専門員更新研修	10月1日	居宅	1
29	介護支援専門員 過程Ⅰ	10月3日	居宅	1
30	災害ボランティアのこれからを考える	10月3日	総務	1
31	乙訓地域看護職連携会議	10月6日	包括	2
32	企業対象人権研修会	10月9日	総務	1
33	ディズニーから学ぶリーダーシップ	10月16日	ヘルプ	1
34	フォロワーシップ相談・支援事業地域別事例検討会	10月21日	地域福祉	1
35	生活支援体制整備推進研修	10月23日	包括	1
36	医療連携研修「高齢者の腎不全管理」	10月31日	居宅	2
37	強度行動障害支援者研修	11月18日	ヘルプ	1
38	生活支援体制整備事業推進研修会	12月2日	包括	1
39	ACP研修会	12月5日	包括	2
40	認知症初期集中支援チーム研修	12月20日	包括	1
41	特例貸付フォローアップ相談・支援事業 地域事例検討会	12月23日	地域福祉	2
42	社協オンラインサロン	1月20日	地域福祉	1
43	介護支援専門員 過程Ⅱ	1月9日	居宅	1
44	認知症介護基礎研修	1月14日	デイ	2
45	地域づくり加速化事業ブロック別研修	1月20日	包括	1
46	相談支援事業所「外部視点で学ぶ相談支援マネジメント」	1月27日	相談	2
47	福祉研修担当リーダー研修	1月29日	居宅・デイ	2
48	京都府町村認知症施策連絡会	2月12日	包括	1
49	地域外の力を活かす	2月16日	包括	1
50	乙訓地域看護職連携会議	2月16日	包括	2
51	社協オンラインサロン	2月20日	地域福祉	1
52	認知症の人の意思決定支援研修	2月22日	包括	1
53	特例貸付フォローアップ事例検討会	2月24日	地域福祉	2
54	認知症初期集中支援チームスキルアップ研修	2月25日	包括	3
55	乙訓障がい者虐待防止研修	3月3日	相談	4
56	乙訓ブロック研修会 難病支援	3月7日	居宅 包括	3
57	医療介護連携研修会 慢性腎不全	3月9日	包括 居宅	5
58	精神保健福祉専門研修	3月10日	包括	1
59	包括在介研修会	3月23日	包括	1
				86